2020年8月5日発行
ひらふく 39-2
地域づくりセンターだより
平福地域づくり協議会◆http://hirafuku.net/

平福地域自治会懇談会の開催結果（概要報告）

文責：地域づくりアドバイザー　井原友建

昨年の9月から11月にわたり、地区内の7つの自治会におうかがいし、ご意見やご提案を頂戴いたしました。皆様には、意見交換会の段取りと、当日のご出席に対し、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました!!　合計で100名以上の住民の方々がお集まりいただき、貴重なご意見を頂きました。重ねてお礼申し上げます。

この意見交換会を経て、各自治会の特徴や平福地域の様子を垣間見ることができました。また、住民の皆様が抱いている地域づくり協議会のイメージも、概ね分かりました。

そこで今回、遅ればせながらではありますが、各自治会の皆様と懇談して、頂戴したご意見やご提案、ご感想等をダイジェストでご紹介いたします。

【7自治会で共通するご意見やご感想、ご提案】

▶ この「みん活」の取り組みで目標を掲げれば、その目標を達成できるようにみんなで協力して進む土壌はあるはず（みんなで団結して取り組む意識）。
▶ 人間関係は良いと思う。
▶ 各自治会、集落の集会所は、「クラブ」と呼ぶところが多く、各自治会の資金で建てた。それだけ結束力、地域としての体力があった。過去には、いろいろな催しやイベントが行われ、いろいろな団体の活動の場としても活用してもらい、まさに自治の中心、クラブ活動の中心であった。
▶ 人は減ってきており、高齢化も進み、自治会の活動が継続できるか不安である。
▶ 時代に合わせて、役も減らしてきたが、それでも人の減少の勢いの方が速い。
▶ 自治会活動の在り方自体を考える時が来ている。

▶ それぞれの集落に伝統があり、個性があるため、協働で出来ることと出来ないことがある。
▶ 住民が多かった頃のままの考え、やり方は出来なくなってきている。変えていかないといけない。
▶ 今は自治会長が役員をしているため、若い人の意見が入ってこない。若い人が役員になって新しい考えが出てくるようにした方が良い。
▶ 災害までは平穏な地域だったが、それ以降、この10年で、すっかり寂しくなった。
▶ 利神小学校（跡）は、どうしていくべきか。

▶ 貴重な財産として智頭急行の駅が、地域内にある。列車が通っていることはすばらしく、他の田舎、中山間地域に比べれば便利なところだと思うが、便数の制約は否めない。
▶ 中国自動車道佐用インターチェンジからも近く、鳥取道も通るようになり、国道には道の駅がある。交通環境は至便なところだと思う。この立地環境を地域づくりに生かせないだろうか。
▶ モノを買う場所が無いのが難点。コープの宅配などが来てくれるが、いつまでも頼れるのだろうか。

▶ 地域づくり協議会が、様々な活動を行っているが、誰のための、何のための活動なのか分からないところもある。
▶ 決して住民のためになっていないと感じる活動もある。

【各自治会でのご意見やご提案、ご感想】

▶ 特に平福宿内の自治会は、それぞれが神社（祭り等の伝統文化の継承）を中心にまとまってきた。
▶ それぞれの集落（自治会）で行っている伝統行事は、何とか続けたい。

▶ 環境としては、周辺の山々（里山）や田畑が荒れてきており、手が付けられない状況になりつつある。
▶ 営農組合で農地を管理しているところもあるが、先行きは不透明である。
▶ 空き家への対処や、行く行くは墓じまいなども考えないといけない。
▶ 今後さらに、荒れた山や田畑、空き家や空き地が増えてくるはず。

▶ 若い世代が少ないのは、親世代が子どもを都市部へ送り出したから。子どもたちが帰ってくる（Uターンの）理由を見つけられない、見出せない。
▶ 下町や南新町は、若い現役世代の世帯や他地域からの移住者が、他の自治会に比べて多く居住しており、また、各種役員等への登用も進んでいる。
▶ しかし、その一方で、幾つも役を担わないといけない状況があり、現役世代にとっては負担感が大きすぎるところがある。
▶ 隣近所でも、顔を合わす機会が減ってきており、昔の良さが消えてきている。ただ、それが時代に合っているのかもしれない。逆に、適度な距離感（付かず離れず）で、居心地が良いのかもしれない。
▶ ただ、もう少しコミュニケーションを取る場は持つべき。

▶ 平福宿内の自治会間では、過去に自治会の統合等の話も持ち上がったが、立ち消えた経緯がある。
▶ 自治会内の隣保の統合は進んできている。

【各自治会を回っての、アドバイザー井原の所感】

▶ 人の好さ、温かさは、どの自治会でもヒシヒシと伝わってきました。
▶ また、それぞれの伝統、文化も感じました。さすが、街道筋の宿場町を中心とした歴史のある地域柄です。
▶ 交通環境が良いというのは、類稀な条件だと感じますが、なかなか皆様の中では生かし切れていないようです。
▶ また、地域に住んでいては“当たり前”となっていることが、実は貴重であったり、有効であったりするのですが、これもなかなか気付かない、気付けていないことです。
▶ 地域の良き環境を上手く使えば、まだまだ元気は保てると思いますし、十分に間に合うタイミングです。
▶ もっと酷くならない、今このタイミングに、ぜひ皆さん力を合わせて、地域づくりに取り組み、元気、活気を維持していきましょう。

史跡利神城跡保存活用計画と応急対策工事

平成29年10月13日、国の史跡指定を受けた利神城跡。わたしたちの地域の宝が、国の保護すべき文化財として認められたのです。

指定後、町では早速、保存活用計画の策定に取り掛かり昨年度末に完成しました。

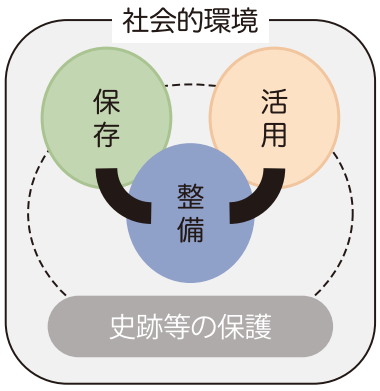
そこで、この計画の概要を紹介するとともに史跡を守るための応急対策工事について、お知らせします。

◆保存活用計画とは

文化財を保存管理することは未来へ伝えるために重要なことですが、近年それとともに文化財を教育や観光、地域振興等に活用することが求められています。しかし、活用内容によっては文化財にダメージが及ぶ場合もあり、これは避けなければなりません。そこで、将来にわたって適切に保存と活用を行うためのルールブックとして保存活用計画をまず策定することになっています。

◆保存計画策定の目的

利神城跡では、①利神城跡及び周辺環境の持つ価値を明らかにし、次世代に継承する。②利神城跡の適切な保存管理方法を示す。③地域を代表する歴史文化遺産として適切な整備・活用のあり方を検討する。この3つの目的に沿った20年間の計画としています。



史跡保護の模式図

◆利神城跡の保存活用計画の特徴

利神城跡が持つ歴史や遺跡周辺の特徴が計画に反映されます。例えば石垣群、平福のまちなみとの関係、中世の別所構との関係等です。

計画の大綱として「利神城跡をめぐる四つの物語（中世利神城・近世利神城・廃城後・宿場町）を再発見し、語り継ぐ」とし、基本方針として「保存」「活用」「整備」「運営・体制」のそれぞれについて方法等を定めています。

◆利神城跡の課題

保存活用計画策定作業では課題も明らかになりました。特に大きな課題となったのは、石垣の崩落や斜面の流失でした。

この状況が進行すると史跡としての価値が失われ、活用も困難になります。

斜面が流出し石垣が崩落している利神城跡

◆応急対策工事

このため、町では石垣や斜面に対する応急対策工事を、今秋から令和4年度までの計画で実施する予定です。

具体的には、石垣落石防止のネット、土のう構築、斜面流出防止のマットなどを設置します。

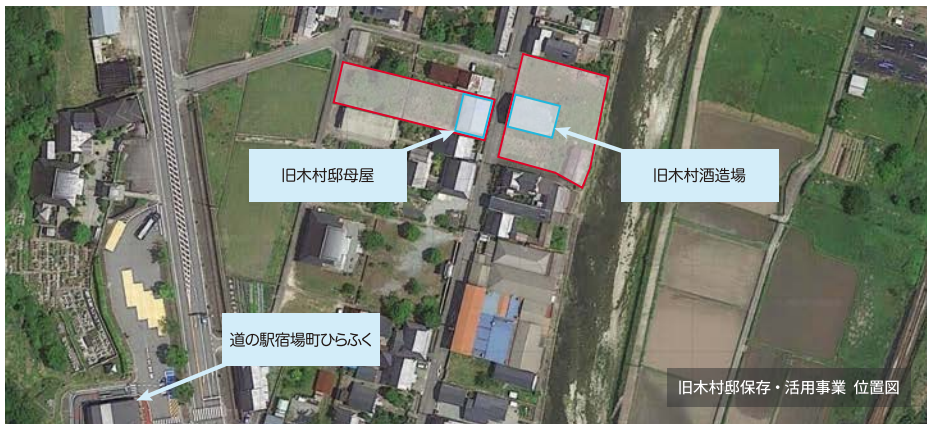
これらは、将来本格的な整備を行うまでの現状維持のための工事となります。同時に最小限の安全性を確保し、現在登山禁止としている山城地区の限定公開を目指します。

石垣ネットの施工例（津和野城跡）

土のう積事例（洲本城跡）

旧木村邸活用事業について

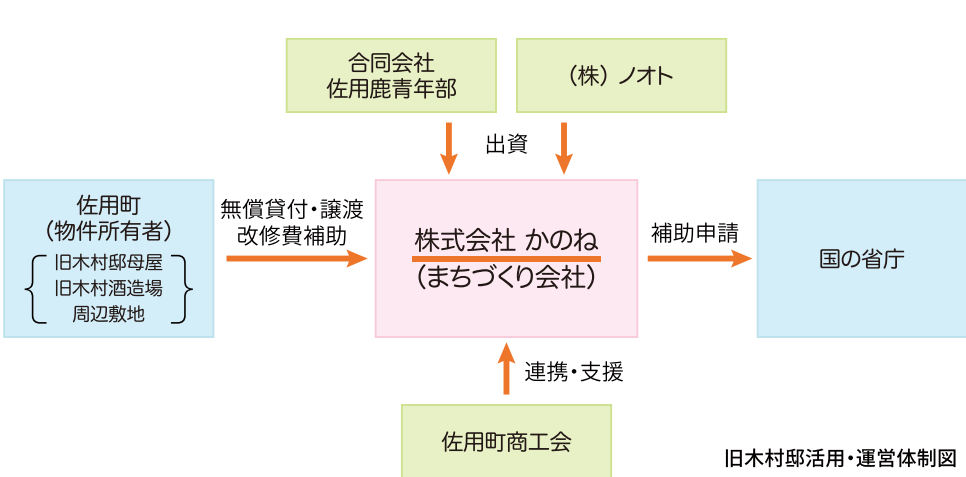
旧木村邸については、平成29年の利神城跡国史跡指定を契機として、町において、歴史・文化的資源を磨き未来に伝承すべく「佐用の歴史と文化を磨く未来伝承プロジェクト」が実施され、豊富な歴史・文化的資源を有する平福地域が重点モデル地区として指定されたこともあり、平成30年の「平福まちづくりワークショップ」を皮切りに、行政や地域の皆さまのほか、有志の方々との意見交換や協議を重ねながら、活用の方向性について模索してきたところです。事業概要と現在の進捗状況について、地域の皆様にご報告いたします。



旧木村邸保存・活用事業 位置図

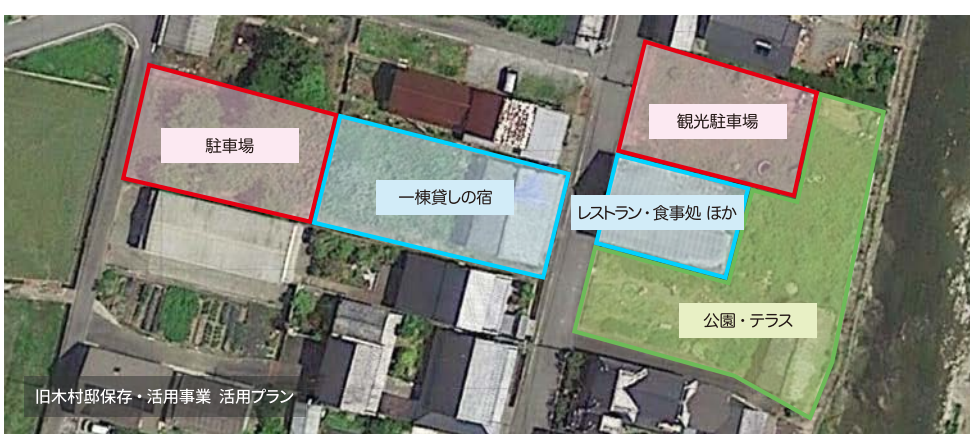
旧木村酒造場を食事処ほか、木村酒造場周辺を観光駐車場や利神城跡を望める公園・テラスとして、町や株式会社かのね（以下、かのね）が改修・整備し、活用する予定です。

旧木村邸については、向かいにある旧木村酒造場を含め、平成30年に町が所有者から一部寄贈、一部売買という形で取得した物件です。現在の予定としては、旧木村邸を一棟貸しの旅館、旧木村酒造場を食事処ほか、木村酒造場周辺を観光駐車場や利神城跡を望める公園・テラスとして、町や株式会社かのね（以下、かのね）が改修・整備し、活用する予定です。



旧木村邸活用・運営体制図

「かのね」は合同会社佐用鹿青年部と株式会社NOTE（ノオト）の2社が出資をして設立した会社です。「合同会社佐用鹿青年部」は、移住・定住促進関連事業やジビエの活用等を行っている佐用町のまちづくり会社で、「株式会社NOTE」は歴史的建築物の活用をコンセプトに、その土地の文化資産を尊重した持続可能なビジネスを実践する、丹羽篠山市を拠点としたまちづくり会社です。活用に当たって、町は土地・建物を無償貸付もしくは無償譲渡という形で「かのね」に提供します。



旧木村邸保存・活用事業 活用プラン

当初は、すべての改修・整備を今年度実施予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、町内商工業の経営環境が悪化していることなどを理由として、「かのね」が行う旧木村酒造場の改修は来年度に延期することとなりました。今年度は町において実施する旧木村邸改修及び周辺整備工事のみを行い、岡野建設株式会社が請負い、現在工事をおこなっています。旧木村邸部分については令和3年初夏、旧木村酒造場部分は令和4年初夏オープンを目指して取り組んでいます。

今後とも町と連携しながら道の駅宿場町ひらふくやお休み処瓜生原とともに、賑わいづくりの拠点となって平福地域を盛り上げるべく地域としても応援していきたいと考えております。何かとご迷惑をおかけしますが、今後とも皆様からのご理解とご協力の程、厚くお願い申し上げます。